

全商簿記１級 財務会計Ⅰ 仕訳プリント

年 組 番 氏名

▶5-8◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 売買目的で額面¥8,000,000の社債を額面¥100につき¥97.20で買い入れ、代金は買入手数料および端数利息とともに小切手¥7,846,000を振り出して支払った。なお、端数利息は¥32,000であった。(第80回)
- (2) 売買目的で額面¥6,000,000の社債を額面¥100につき¥97.50で買い入れ、代金は買入手数料¥29,000および端数利息¥16,000とともに小切手を振り出して支払った。(第82回)
- (3) 売買目的で額面¥6,000,000の社債を¥100につき¥98.40で買い入れ、代金は買入手数料¥31,000および端数利息とともに小切手¥5,959,000を振り出して支払った。(第76回一部修正)
- (4) 売買目的で保有している滋賀商事株式会社の社債 額面¥40,000,000のうち¥15,000,000を額面¥100につき¥98.60で売却し、代金は端数利息¥100,000とともに小切手で受け取った。ただし、この額面¥40,000,000の社債は当期に額面¥100につき¥97.60で買い入れたものであり、同時に買入手数料¥80,000および端数利息¥200,000を支払っている。(第79回)
- (5) 売買目的で保有している栃木工業株式会社の社債 額面¥50,000,000のうち¥15,000,000を額面¥100につき¥96.80で売却し、代金は端数利息¥130,000とともに小切手で受け取った。ただし、この額面¥50,000,000の社債は当期に額面¥100につき¥96.70で買い入れたものであり、同時に買入手数料¥40,000および端数利息¥180,000を支払っている。(第81回)

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

▶9-74 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) かねて建築を依頼していた建物が完成し、引き渡しを受けたので、建築代金¥58,000,000のうち、すでに支払ってある金額を差し引いて、残額¥15,000,000は小切手を振り出して支払った。
(第83回)
- (2) 高知商事株式会社は建物の改良および修繕をおこない、その代金¥7,800,000を小切手を振り出して支払ったさい、全額を資本的支出として処理していたが、その代金のうち¥1,300,000は建物の通常の維持・管理のために支出していたことが判明したため、本日、これを訂正した。(第74回)
- (3) 秋田産業株式会社は、建物の改良および修繕をおこない、その代金¥8,400,000は月末に支払うことにした。ただし、代金のうち¥7,300,000は、建物の価値を増加させるための支出と認められ、残額は通常の維持・管理のための支出とした。
(第65回)
- (4) かねて建設を依頼していた機械装置が完成し、引き渡しを受けたので、建設代金¥80,300,000のうち、すでに支払ってある¥60,000,000を差し引いて、残額は小切手を振り出して支払った。なお、この機械装置の試運転費¥90,000は現金で支払った。
(第71回)
- (5) 岡山工業株式会社は、建物の改良と修繕をおこない、その代金¥6,800,000を月末に支払うことにした。ただし、代金のうち¥2,550,000は、建物の使用可能期間を延長させる資本的支出と認められ、残額は通常の維持・管理のための支出とした。
(第63回)
- (6) かねて建設を依頼していた機械装置が完成し、引き渡しを受けたので、建設代金¥75,000,000のうち、すでに支払ってある¥50,000,000を差し引いて、残額は小切手を振り出して支払った。なお、この機械装置の試運転費¥130,000は現金で支払った。
(第79回)
- (7) かねて中古の店舗を購入していたが、使用する前に、この店舗の修繕および模様替えをおこない、工事費用¥2,000,000を小切手を振り出して支払った。ただし、この工事費用は、全額資本的支出とした。
(第44回)

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				

▶10-64 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 徳島商事株式会社（決算年／回）は、第8期初頭に備品を¥2,900,000で買い入れ、この代金はこれまで使用してきた備品を¥1,200,000で引き取らせ、新しい備品の代金との差額は月末に支払うことにした。ただし、この古い備品は第6期初頭に¥2,560,000で買い入れたもので、定率法により毎期の償却率を25%として減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。（第71回）
- (2) 群馬商事株式会社（決算年／回）は、取得原価¥1,410,000の備品を第35期初頭に除却し、廃棄処分した。ただし、この備品は、第3/期初頭に買い入れたもので、定額法により、残存価額は零（0）耐用年数は6年として減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。なお、この備品の評価額は零（0）である。（第77回）
- (3) 奈良鉱業株式会社（決算年／回）は、当期首に機械装置を¥6,732,000で買い入れ、この代金は、これまで使用してきた機械装置を¥540,000で引き取らせ、新しい機械装置の代金との差額は月末に支払うことにした。ただし、これまで使用してきた機械装置は¥8,550,000で買い入れたもので、残存価額は零（0）予定総利用時間数は16,000時間 前期末までの実際利用時間数は14,400時間であり、生産高比例法によって減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。（第83回）

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				

▶10-74 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 沖縄商事株式会社（決算年／回）は、第6期初頭に備品を¥3,200,000で買い入れ、この代金はこれまで使用してきた備品を¥1,300,000で引き取らせ、新しい備品の代金との差額は月末に支払うことにした。ただし、この古い備品は第4期初頭に¥2,800,000で買い入れたもので、定率法により毎期の償却率を25%として減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。（第64回）
- (2) 長野商事株式会社（決算年／回）は、第13期初頭に備品を¥540,000で買い入れ、この代金はこれまで使用してきた備品を¥37,000で引き取らせ、新しい備品の代金との差額は小切手を振り出して支払った。ただし、この古い備品は、第9期の初頭に¥480,000で買い入れたもので、耐用年数6年、残存価額は零（0）とし、定額法によって毎期の減価償却費を計算し、間接法で記帳している。（第78回一部修正）
- (3) 徳島鉱業株式会社は、当期首にこれまで使用してきた取得原価¥5,200,000の採掘用の機械装置を除却し、廃棄処分した。ただし、この機械装置の残存価額は零（0） 予定総利用時間数は26,000時間 前期末までの実際利用時間数は24,700時間であり、生産高比例法によって減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。なお、この機械装置の評価額は零（0）である。（第74回）
- (4) 三重商事株式会社（決算年／回）は、取得原価¥1,000,000の備品を第2／期初頭に除却し、廃棄処分した。ただし、この備品は、第18期初頭に買い入れたもので、定率法により、毎期の償却率を20%として、減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。なお、この備品の評価額は零（0）である。（第82回）
- (5) 茨城商事株式会社（決算年／回）は、第7期初頭に備品を¥1,250,000で買い入れ、この代金はこれまで使用してきた備品を¥400,000で引き取らせ、新しい備品の代金との差額は月末に支払うことにした。ただし、この古い備品は第3期初頭に¥960,000で買い入れたもので、耐用年数8年、残存価額は零（0）とし、定額法によって毎期の減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。（第81回）

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

▶11-3◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

下記の財政状態のB商会を¥13,000,000で取得し、小切手を振り出して支払った。なお、B商会の資産と負債の時価は帳簿価額に等しいものとする。

貸借対照表					
B 商会			令和〇年3月31日		
			(単位：円)		
売掛金	7,000,000	買掛金	1,000,000		
備品	3,000,000	借入金	3,000,000		
建物	5,000,000	資本金	11,000,000		
	15,000,000		15,000,000		

借	方	貸	方

▶11-4◀ 下記の財政状態のB商会を取得したさいの、のれんの金額を求めなさい。ただし、同商会の平均利益額は¥5/2,000 同種企業の平均利益率を8%として収益還元価値を求め、その金額を取得対価とした。なお、B商会の資産と負債の時価は帳簿価額に等しいものとする。

貸借対照表					
B 商会			令和〇年3月31日		
			(単位：円)		
売掛金	4,450,000	買掛金	1,800,000		
商用品	3,050,000	借入金	700,000		
備品	1,200,000	資本金	6,200,000		
	8,700,000		8,700,000		

のれん の 金 額 ¥

▶11-5◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 徳島鉱業株式会社は¥120,000,000で鉱業権を取得した鉱区から、当期に16,000トンの採掘量があったので、生産高比例法を用いて鉱業権を償却した。ただし、この鉱区の推定埋蔵量は320,000トンであり、鉱業権の残存価額は零(0)である。(第80回)
- (2) 静岡商事株式会社は、次の財政状態にある浜松商会を取得し、取得対価は小切手を振り出して支払った。ただし、同商会の平均利益額は¥324,000 同種企業の平均利益率を8%として収益還元価値を求め、その金額を取得対価とした。なお、浜松商会の貸借対照表に示されている資産および負債の帳簿価額は時価に等しいものとする。(第66回一部修正)

貸借対照表					
浜松商会			(単位：円)		
売掛金	3,200,000	買掛金	3,100,000		
建物	3,900,000	長期借入金	2,000,000		
備品	1,400,000	資本金	3,400,000		
	8,500,000		8,500,000		

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				

▶12-4◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 富山商事株式会社は、子会社の財政状態が著しく悪化したので、保有する同社の株式80株（/株の帳簿価額¥60,000）を実質価額によって評価替えをした。なお、子会社の資産総額は¥7,000,000 負債総額は¥4,500,000 発行済株式数は100株（時価の把握がきわめて困難な株式）である。
- (2) 満期まで保有する目的で、下記の福井産業株式会社の社債を発行時に¥100につき¥98で買い入れていたが、本日、半年分の利息¥15,000を現金で受け取った。また、本日、決算日にあたり、償却原価法によって評価した。
社債額面 ¥1,000,000 払込金額 ¥100につき¥98 利率 年3% 利払い 年2回
償還期限 10年
- (3) 満期まで保有する目的で、額面¥4,000,000の社債を¥100につき¥98.50で買い入れ、この代金は、買入手数料¥33,000および端数利息¥56,000とともに小切手を振り出して支払った。
- (4) 決算（決算年/回 3月3/日）にあたり、保険料の前払高を次期に繰り延べる。ただし、保険料¥396,000は、当期の7月/日から3年分の保険料として支払ったものである。
- (5) 決算にあたり、その他有価証券として保有する東西産業株式会社の株式90株（/株の帳簿価額¥50,000）を/株につき¥40,000に評価する。

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

▶12-6◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 青森物産株式会社は、実質的に支配している南興業株式会社の財政状態が悪化したので、保有する同社の株式150株（帳簿価額¥11,700,000）を実質価額によって評価替えした。なお、南興業株式会社の資産総額は¥39,000,000 負債総額は¥32,000,000で、発行済株式数は200株（時価の把握がきわめて困難な株式）である。（第81回）
- (2) 満期保有目的で発行時に買い入れた次の社債について、半年分の利息を現金で受け取った。また、本日、決算にあたり、償却原価法によって評価した。（第65回一部修正）

社債額面 ¥6,000,000 取得価額 ¥100につき¥98.50
償還期限 5年 利 率 年2% 利払い 年2回

- (3) 青森商事株式会社は、子会社である北西商事株式会社の財政状態が次のように著しく悪化したので、保有する同社の株式200株（1株の帳簿価額¥86,000）を実質価額によって評価替えした。なお、北西商事株式会社の発行済株式数は300株（時価の把握がきわめて困難な株式）である。（第58回一部修正）

北西商事株式会社		貸 借 対 照 表		(単位：円)
資 産 総 額	45,600,000	負 債 総 額	36,000,000	
繰越利益剰余金	2,400,000	資 本 金	12,000,000	
	48,000,000		48,000,000	

- (4) 満期まで保有する目的で、滋賀商事株式会社の額面¥5,840,000の社債を、額面¥100につき¥97.50で買い入れ、代金は買入手数料¥18,000および端数利息¥22,000とともに小切手を振り出して支払った。（第83回）

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

- ▶14-54 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。
- (1) 大阪商店から商品¥650,000を仕入れ、代金のうち¥200,000は得意先京都商店振り出し、当店あての約束手形を裏書譲渡し、残額は大阪商店あての約束手形を振り出して支払った。なお、保証債務の時価は手形額面金額の2%とする。(第83回)
 - (2) 滋賀商店から商品代金として受け取っていた同店振り出しの約束手形¥600,000を取引銀行で割り引き、割引料¥3,000を差し引かれた手取金は当座預金とした。なお、保証債務の時価は手形額面金額の1%とする。(第73回)
 - (3) かねて、買掛金の支払いとして山梨商店に裏書譲渡していた岐阜商店振り出しの約束手形¥300,000が期日に決済された。なお、裏書譲渡したさいに手形額面金額の1%の保証債務を計上している。(第78回)
 - (4) かねて、取引銀行で割り引いていた大阪商店振り出しの約束手形¥350,000が期日に決済されたとの通知を受けた。なお、この手形を割り引いたさいに手形額面金額の2%の保証債務を計上している。(第79回)
 - (5) かねて、商品代金の支払いとして福井商店に裏書譲渡していた北東商店振り出しの約束手形が期日に不渡りとなり、償還請求を受けた。よって、手形金額および期日以後の利息¥6,000とともに小切手¥1,256,000を振り出して支払い、同時に北東商店に支払請求をおこなった。なお、この手形を裏書きしたさいに手形額面金額の2%の保証債務を計上している。(第82回)

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

▶15-9▶ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 神奈川物産株式会社（決算年／回）は、次の条件で第18期初頭に発行した社債のうち、額面¥30,000,000を第25期初頭に@¥98.60で買入償還し、定期預金から支払った。ただし、社債は償却原価法（定額法）によって評価している。（第77回一部修正）

<u>発行条件</u>	額面総額 ¥80,000,000	払込金額 @¥97.80
	償還期限 10年	利 率 年1.4%

- (2) 鳥取産業株式会社（決算年／回）は、次の条件で発行した社債のうち、額面¥15,000,000を発行後8年目の初頭に額面¥100につき¥99.70で買入償還し、小切手を振り出して支払った。なお、社債の評価は償却原価法（定額法）によっている。（第83回）

<u>発行条件</u>	額面総額 ¥60,000,000	払込金額 額面¥100につき¥98.60
	償還期限 10年	利 率 年1.2%

- (3) 和歌山商事株式会社は、社債¥8,000,000が満期となったので、小切手を振り出して償還した。（第79回一部修正）

- (4) 奈良物産株式会社は、決算（年／回）にさいし、当期首に次の条件で発行した社債について、償却原価法（定額法）によって評価した。（第73回）

<u>発行条件</u>	額面総額 ¥60,000,000	払込金額 ¥100につき¥97
	償還期限 8年	

- (5) 熊本商事株式会社は、決算（年／回）にさいし、前期首に発行した次の社債について、償却原価法（定額法）によって評価する。（第71回一部修正）

額面総額 ¥6,000,000	払込金額 ¥100につき¥98	償還期限 10年
-----------------	-----------------	----------

- (6) 大阪産業株式会社は発行している社債のうち、額面¥30,000,000を抽せんによって償還することに決定していたが、本日、定期預金から支払った。（第59回一部修正）

- (7) 山形産業株式会社は、社債¥14,000,000が満期となったので、小切手を振り出して償還した。（第81回一部修正）

- (8) 愛媛物産株式会社（決算年／回）は、次の条件で発行した社債のうち、額面¥40,000,000を発行後7年目の初頭に額面¥100につき¥98.70で買入償還し、小切手を振り出して支払った。なお、社債の評価は償却原価法（定額法）によっている。（第80回）

<u>発行条件</u>	額面総額 ¥50,000,000	払込金額 額面¥100につき¥97.60
	償還期限 10年	利 率 年1.6%

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				
(6)				
(7)				
(8)				

▶16-3◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 従業員荒川一郎が退職したので、定期預金¥4,500,000を払い戻して、退職金を支給した。ただし、退職給付引当金勘定残高が¥21,000,000ある。
- (2) 決算にさいし、退職給付引当金¥860,000を計上し、同時に同額の小切手を振り出して定期預金とした。

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				

▶16-4◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 仮払金¥400,000は、当期首に退職した従業員に対する退職一時金であったので、退職給付引当金勘定を用いて処理する。(第69回)
- (2) 従業員の全商花子が退職し、退職一時金¥7,000,000を定期預金から支払った。ただし、退職給付引当金勘定の残高が¥8,500,000ある。(第81回)

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				

- ▶18-54 次の取引の仕訳を示しなさい。
- (1) 福岡商事株式会社は、企業規模の拡大のため、株式700株を1株につき¥90,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。なお、株式の発行に要した諸費用¥520,000は小切手を振り出して支払った。

(第74回)
- (2) 愛知商事株式会社は、設立にさいし、株式400株を1株につき¥80,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。なお、設立準備に要した諸費用¥1,300,000は小切手を振り出して支払った。

(第70回一部修正)
- (3) 宮崎商事株式会社は、開業後5年目に、株式400株を1株につき¥120,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。なお、この株式の発行に要した諸費用¥390,000は小切手を振り出して支払った。

(第68回一部修正)
- (4) 青森産業株式会社は、事業拡張のため、株式500株を1株につき¥70,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。

(第65回一部修正)
- (5) 鹿児島商事株式会社は、設立にさいし、株式300株を1株につき¥90,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。なお、設立準備に要した諸費用¥1,760,000は小切手を振り出して支払った。

(第81回一部修正)
- (6) 三重産業株式会社は、事業拡張のため、株式200株を1株につき¥95,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。なお、株式の発行に要した諸費用¥880,000は小切手を振り出して支払った。

(第78回一部修正)

	借方	貸方
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		
(5)		
(6)		

▶19-3◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 愛媛商事株式会社は、株主総会の決議にもとづいて資本準備金¥4,000,000を減少し、その他資本剰余金を同額増加した。
- (2) 岡山商事株式会社は、株主総会の決議にもとづいて、資本金¥3,000,000を減少して、その他資本剰余金を同額増加させ、繰越利益剰余金勘定の借方残高¥3,000,000をてん補した。
- (3) 香川物産株式会社は、株主総会の特別決議にもとづいて、資本金¥5,500,000を減少し、これにより剰余金¥5,000,000の配当をおこなった。なお、配当額の10分の1を資本準備金に計上する。
- (4) 高知物産株式会社は、繰越利益剰余金の借方残高¥3,500,000をてん補するため、資本金¥3,500,000を減少した。
- (5) 四国商事株式会社は、下記の財政状態の南北商会株式会社を合併することになり、時価総額¥12,000,000の新株式を南北商会株式会社の株主に交付した。この合併によって四国商事株式会社において増加する資本金の額は¥9,000,000 その他資本剰余金の額は¥3,000,000とする。なお、南北商会株式会社の資産と負債の時価は、帳簿価額に等しいものとする。

南北商会株式会社		貸 借 対 照 表		(単位：円)
現 金 預 金	1,050,000	買 掛 金	4,500,000	
売 掛 金	5,250,000	資 本 金	10,500,000	
商 品	8,400,000	利 益 準 備 金	1,200,000	
備 品	1,500,000			
	<u>16,200,000</u>			<u>16,200,000</u>

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

▶19-6◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 奈良商事株式会社は、株主総会の決議によって繰越利益剰余金の借方残高¥11,700,000をてん補するため、その他資本剰余金¥11,700,000を減少した。(第48回一部修正)
- (2) 秋田商事株式会社は、次の財政状態にある株式会社能代商会を吸収合併することになり、同社の株主に対して、新株式200株（1株の時価¥60,000）を交付した。ただし、この合併により、秋田商事株式会社において増加する資本金の額は¥10,000,000 資本準備金の額は¥2,000,000とした。(第57回一部修正)

株式会社能代商会		貸 借 対 照 表		(単位：円)
売 掛 金	2,700,000	買 掛 金	1,300,000	
建 物	7,500,000	資 本 金	11,000,000	
備 品	2,680,000	利 益 準 備 金	580,000	
	<u>12,880,000</u>		<u>12,880,000</u>	

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				

- ▶20-3◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。
- (1) 青森建設株式会社に建築を依頼していた店舗用建物が完成し、引き渡しを受けたので、建築代金¥9,700,000のうち、すでに支払ってある¥5,200,000を差し引いて、残額は小切手を振り出して支払った。なお、新築積立金¥9,500,000を取り崩した。
- (2) 南東商事株式会社は、決算の結果、当期純損失¥4,200,000を計上した。
- (3) 神奈川商事株式会社は、株主総会において、繰越利益剰余金¥4,600,000を次のとおり配当および処分することを決議した。なお、資本金は¥90,000,000 資本準備金および利益準備金の合計額は¥17,000,000である。
- 利益準備金 会社法に規定する額 配 当 金 ¥3,200,000 別途積立金 ¥1,080,000
- (4) 大阪商事株式会社は、発行している社債のうち、額面¥50,000,000を抽せんによって償還することに決定していたが、本日、定期預金から支払った。なお、かねてから積み立ててある減債積立金¥50,000,000を取り崩した。

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

▶20-6◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 関西商事株式会社は、株主総会において、剰余金¥4,000,000（その他資本剰余金¥1,000,000 繰越利益剰余金¥3,000,000）の配当をおこなうことを決議した。なお、配当にともない、資本準備金¥100,000 利益準備金¥300,000を計上する。（第83回）
- (2) 岐阜商事株式会社は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。なお、当社の純資産は、資本金¥64,000,000 資本準備金¥14,500,000 利益準備金¥1,370,000 別途積立金¥630,000 繰越利益剰余金¥2,100,000（貸方）である。（第82回）
利益準備金 会社法による額 配 当 金 ¥1,410,000 別途積立金 ¥220,000
- (3) 福岡商事株式会社は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。なお、当社の純資産は、資本金¥94,000,000 資本準備金¥18,000,000 利益準備金¥2,360,000 繰越利益剰余金¥2,800,000（貸方）である。（第80回）
利益準備金 会社法に規定する額 配 当 金 ¥2,100,000 別途積立金 ¥320,000
- (4) 和歌山商事株式会社は、社債¥8,000,000が満期となったので、小切手を振り出して償還した。なお、取締役会の決議により減債積立金¥8,000,000を取り崩した。（第79回）
- (5) 三重商事株式会社は、株主総会において、剰余金¥7,000,000（その他資本剰余金¥4,000,000 繰越利益剰余金¥3,000,000）の配当をおこなうことを決議した。なお、配当にともない、資本準備金¥400,000 利益準備金¥300,000を計上する。（第78回）

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				
(5)				

▶21-2◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 自社の発行済株式のうち200株を1株につき¥60,000で取得し、小切手を振り出して支払った。
- (2) 保有する自己株式¥3,600,000（帳簿価額）を¥4,200,000で売却した。受け取った代金は当座預金とした。
- (3) 保有する自己株式¥7,200,000（帳簿価額）を¥6,000,000で売却した。受け取った代金は当座預金とした。
- (4) 保有する自己株式¥1,200,000（帳簿価額）を消却した。

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

▶21-3◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。

- (1) 石川商事株式会社は、発行済株式のうち50株を1株につき¥50,000で取得し、小切手を振り出して支払った。
- (2) 長野商事株式会社は、保有する自己株式（1株の帳簿価額¥50,000）のうち、30株を1株につき¥70,000で売却し、受け取った代金は当座預金とした。
- (3) 新潟商事株式会社は、保有する自己株式（1株の帳簿価額¥40,000）のうち、50株を1株につき¥30,000で売却し、受け取った代金は当座預金とした。
- (4) 福井商事株式会社は、保有する自己株式（1株の帳簿価額¥80,000）10株を消却した。

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

▶23-6◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。

- (1) 日光商店と今市商店に試用販売のため、それぞれ売価¥250,000の商品を送付してあったが、本日、日光商店から商品を買取るとの通知を受け、今市商店からは商品の返送を受けた。ただし、発送したときに、対照勘定により備忘記録がしてあった。
- (2) 売価¥300,000の商品を10か月の均等分割払いの契約で販売してあったが、本日、第4回目の割賦金¥30,000を現金で受け取った。ただし、収益の計上は回収基準により、割賦販売契約・割賦販売上の対照勘定を用いて処理している。

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				

▶23-11◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、商品に関する勘定は3分法によること。

- (1) 試用販売のため、広島商店に次の商品を送付していたが、本日、同店からA品が返送された。なお、B品については意思表示がされていない。ただし、商品を発送したさい、試用販売契約・試用販売上の対照勘定を用いて備忘記録がしてある。(第76回一部修正)

A 品 売 価 ¥360,000 原 価 ¥250,000

B 品 売 価 ¥320,000 原 価 ¥240,000

- (2) 愛知商店に売価¥2,910,000の商品を30回の均等分割払いの契約で販売していたが、本日、第8回目の割賦金を現金で受け取った。ただし、収益の計上は回収基準により、割賦販売契約・割賦販売上の対照勘定を用いて処理している。(第82回一部修正)
- (3) 佐賀商店に売価¥4,680,000の商品を24回の均等分割払いの契約で販売し、同時に第1回目の割賦金を現金で受け取った。ただし、収益の計上は回収基準により、商品を販売したときに、売価の総額を割賦販売契約・割賦販売上の対照勘定に計上することになっている。(第74回一部修正)
- (4) 沖縄商店に試用販売のため、A品とB品を送付していたが、本日、同店からA品を買取るとの通知を受け、B品は返送された。ただし、商品を発送したさい、試用販売契約・試用販売上の対照勘定を用いて次の金額で備忘記録がしてある。(第71回一部修正)

A 品 ¥200,000 (売価) B 品 ¥180,000 (売価)

	借	方	貸	方
(1)				
(2)				
(3)				
(4)				

▶33-1◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	当座預金	定期預金	売買目的有価証券	建物
機械装置	機械装置減価償却累計額	備品	備品減価償却累計額	未払金
社債	資本金	資本準備金	利益準備金	自己株式
受取利息	社債償還益	固定資産売却益	支払利息	修繕費
手形売却損	株式交付費	創立費	社債償還損	固定資産売却損

1. 長崎商事株式会社は建物の改良と修繕をおこない、その代金¥8,700,000を小切手を振り出して支払った。ただし、代金のうち¥4,800,000は資本的支出とした。
2. 大阪鉱業株式会社（決算年／回）は、当期首に機械装置を¥7,200,000で買い入れ、この代金は、これまで使用してきた機械装置を¥950,000で引き取らせ、新しい機械装置の代金との差額は月末に支払うことにした。ただし、これまで使用してきた機械装置は¥8,500,000で買い入れたもので、残存価額は零（0） 予定総利用時間数は17,000時間 前期末までの実際利用時間数は13,600時間であり、生産高比例法によって減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。
3. 山形商事株式会社は、開業後5年目に、株式400株を／株につき¥100,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。なお、この株式の発行に要した諸費用¥280,000は小切手を振り出して支払った。
4. 立山商事株式会社は、自社の発行済株式のうち80株を／株につき¥70,000で取得し、代金は小切手を振り出して支払った。
5. 栃木商事株式会社は、次の条件で発行した社債のうち、額面¥60,000,000を発行後8年目の初頭に額面¥100につき¥98.20で買入償還し、定期預金から支払った。ただし、社債の評価は償却原価法（定額法）によっている。

発行条件	額面総額 ¥80,000,000	払込金額	額面¥100につき¥97.50
	償還期限 10年	利 率	年 2 %

	借 方	貸 方
1		
2		
3		
4		
5		

▶33-2◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	受 取 手 形	売買目的有価証券	備 品
備品減価償却累計額	鉱 業 権	満期保有目的債券	支 払 手 形	保 証 債 務
社 債	利 益 準 備 金	減 債 積 立 金	繰越利益剰余金	売 上
受 取 利 息	有価証券利息	仕 入	手 形 売 却 損	固定資産除却損
鉱 業 権 償 却	保証債務費用	割賦販売契約 (割賦売掛金)	割 賦 仮 売 上	

- 群馬商店から商品代金として受け取っていた同店振り出しの約束手形¥830,000を取引銀行で割り引き、割引料を差し引かれた手取金¥822,000は当座預金とした。なお、保証債務の時価を¥17,000と評価した。
- 埼玉物産株式会社は、社債¥80,000,000が満期となったので、小切手を振り出して償還した。なお、取締役会の決議により減債積立金¥80,000,000を取り崩した。
- 大分商事株式会社（決算年／回）は、取得原価¥4,840,000の備品を第30期初頭に除却し、廃棄処分した。ただし、この備品は、第24期初頭に買い入れたもので、定額法により、残存価額は零（0）耐用年数は8年として減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。なお、この備品の評価額は零（0）である。
- 満期まで保有する目的で、京都商事株式会社の額面¥6,700,000の社債を、額面¥100につき¥96.50で買い入れ、代金は買入手数料¥17,500および端数利息¥24,000とともに小切手を振り出して支払った。
- 熊本鉱業株式会社（決算年／回 3月31日）は、決算にあたり、生産高比例法を用いて鉱業権を償却した。なお、この鉱業権は当期の10月1日に¥284,000,000で取得し、当期に5,000トンの採掘量があった。ただし、この鉱区の推定埋蔵量は400,000トンであり、鉱業権の残存価額は零（0）である。
- 長野商事株式会社は、売価¥1,800,000の商品を24回の均等分割払いの契約で販売し、同時に第1回目の割賦金を現金で受け取った。ただし、収益の計上は回収基準により、商品を販売したときに、売価の総額を対照勘定を用いて処理している。

	借 方	貸 方
1		
2		
3		
4		
5		
6		

▶33-3◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	当座預金	受取手形	売掛金	売買目的有価証券
機械装置	備品	備品減価償却累計額	建設仮勘定	支払手形
未払配当金	保証債務	社債	資本準備金	その他資本剰余金
利益準備金	繰越利益剰余金	売上	受取利息	有価証券利息
有価証券売却益	保証債務取崩益	仕入	有価証券売却損	売上割引
保証債務費用	固定資産除却損	試用販売契約	試用仮売上	

- かねて建設を依頼していた機械装置が完成し、引き渡しを受けたので、建設代金¥90,000,000のうち、すでに支払ってある¥65,000,000を差し引いて、残額は小切手を振り出して支払った。なお、この機械装置の試運転費¥70,000は現金で支払った。
- 岩手商店に試用販売のため、売価¥850,000の商品を送付していたが、本日、同店からこの商品が返送された。ただし、商品を発送したさい、試用販売契約・試用仮売上の対照勘定を用いて備忘記録がしてある。
- 売買目的で保有している新潟商事株式会社の社債 額面¥15,000,000（帳簿価額 ¥13,800,000）のうち、その3分の1を額面¥100につき¥97.50で売却し、代金は端数利息¥50,000とともに小切手で受け取った。
- かねて、商品代金として福井商店に裏書譲渡していた石川商店振り出しの約束手形¥800,000が期日に決済された。なお、この手形を裏書譲渡したさいに¥8,000の保証債務を計上している。
- 滋賀商店に対する売掛金¥850,000を期日前に受け取ることになり、契約によって2%の割引をおこない、割引額を差し引いた金額を同店振り出しの小切手で受け取った。
- 奈良商事株式会社は、株主総会において、剰余金¥5,000,000（その他資本剰余金¥1,500,000 繰越利益剰余金¥3,500,000）の配当をおこなうことを決議した。なお、配当にともない、資本準備金¥150,000 利益準備金¥350,000を計上する。
- 青森商事株式会社（決算年/回）は、取得原価¥2,000,000の備品を第22期初頭に除却し、廃棄処分した。ただし、この備品は、第19期初頭に買い入れたもので、定率法により、毎期の償却率を20%として、減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。なお、この備品の評価額は零（0）である。

	借	方	貸	方
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

▶33-4◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	売 掛 金	建 物	鉱 業 権
買 掛 金	社 債	資 本 金	資 本 準 備 金	利 益 準 備 金
その他資本剰余金	自 己 株 式	売 上 受 取 利 息		有 価 証 券 利 息
有価証券売却益	仕 入 割 引	仕 入 支 払 利 息		社 債 利 息
修 繕 費	株 式 交 付 費	創 立 費	鉱 業 権 償 却	割 賦 販 売 契 約 (割 賦 売 掛 金)
割 賦 販 売 上				

- 福岡商店に対する買掛金¥450,000の支払いにあたり、支払期日前のため同店から2%の割引を受け、割引額を差し引いた金額を小切手を振り出して支払った。
- 長崎鉱業株式会社は¥512,000,000で鉱業権を取得した鉱区から、当期に40,000トンの採掘量があったので、生産高比例法を用いて鉱業権を償却した。ただし、この鉱区の推定埋蔵量は1,600,000トンであり、鉱業権の残存価額は零(0)である。
- 黒部商事株式会社は、保有している自社が発行した株式(1株の帳簿価額¥60,000)のうち、55株を1株につき¥50,000で売却し、受け取った代金は当座預金とした。
- 札幌商店に対する買掛金を期日前に支払ったときに¥8,000の割引を受けたが、誤って、仕入値引を受けたように処理していたので、本日、これを訂正した。
- 函館商事株式会社は、売価¥4,200,000の商品を30回の均等分割払いの契約で販売していたが、本日、最終回の割賦金を現金で受け取った。ただし、収益の計上は回収基準により、対照勘定を用いて処理している。
- 前橋商事株式会社は建物の改良および修繕をおこない、その代金¥6,900,000を小切手を振り出して支払ったさい、全額を資本的支出として処理していたが、その代金のうち¥2,100,000は建物の通常の維持・管理のために支出していたことが判明したため、本日、これを訂正した。
- 名古屋物産株式会社は、決算(年/回)にさいし、当期首に次の条件で発行した社債について、償却原価法(定額法)によって評価した。

発行条件 額面総額 ¥30,000,000 払込金額 ¥100につき¥98 償還期限 8年

- 米沢商事株式会社は、設立にさいし、株式400株を1株につき¥82,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。なお、設立準備に要した諸費用¥1,460,000は小切手を振り出して支払った。

	借 方	貸 方
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		

▶33-5◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	売 掛 金	不 渡 手 形	備 品
備品減価償却累計額	建 物	建 設 仮 勘 定	前 払 金	保 証 債 務
未 払 金	社 債	資 本 金	資 本 準 備 金	利 益 準 備 金
新 築 積 立 金	繰越利益剰余金	売 上	受 取 利 息	固 定 資 産 売 却 益
保証債務取崩益	仕 入	株 式 交 付 費	創 立 費	売 上 割 引
固定資産売却損	割賦販売契約 (割賦売掛金)	割 賦 仮 売 上		

1. 静岡商店に売価¥7,560,000の商品を36回の均等分割払いの契約で販売した。ただし、収益の計上は回収基準により、商品を販売したときに、売価の総額を対照勘定を用いて処理している。
2. かねて、商品代金として水戸商店に裏書譲渡していた北東商店振り出しの約束手形が期日に不渡りとなり、水戸商店から償還請求を受けた。よって、手形金額¥500,000および償還請求の諸費用¥2,000をともに小切手を振り出して支払い、同時に北東商店に支払請求をおこなった。なお、この手形を裏書譲渡したさいに¥5,000の保証債務を計上している。
3. 愛知商事株式会社は、企業規模の拡大のため、株式600株を1株につき¥95,000で発行し、全額の引き受け・払い込みを受け、払込金は当座預金とした。ただし、払込金額のうち、資本金に計上しない金額は、会社法に規定する最高限度額とした。なお、株式の発行に要した諸費用¥360,000は小切手を振り出して支払った。
4. 三重商店から売掛金¥850,000を期日前に受け取ることになり、契約によって2%の割引をおこない、現金¥833,000を受け取ったさい、次のような仕訳をしていた。よって、本日、これを訂正した。
- (借) 現 金 833,000 (貸) 売 掛 金 833,000
5. かねて建築を依頼していた店舗用建物が完成し、引き渡しを受けたので、建築代金¥7,200,000のうち、すでに支払ってある¥4,200,000を差し引き、残額は小切手を振り出して支払った。なお、取締役会の決議により、新築積立金¥7,000,000を取り崩した。
6. 和歌山商事株式会社(決算年/回)は、第8期初頭に備品を¥3,000,000で買い入れ、この代金はこれまで使用してきた備品を¥1,000,000で引き取らせ、新しい備品の代金との差額は月末に支払うことにした。ただし、これまで使用してきた備品は第6期初頭に¥2,480,000で買い入れたもので、定率法により毎期の償却率を25%として減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。

	借 方	貸 方
1		
2		
3		
4		
5		
6		

▶33-6◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現金	当座預金	定期預金	受取手形	売掛金
機械装置	機械装置減価償却累計額	支払手形	前払金	買掛金
前受金	保証債務	社債	退職給付引当金	資本金
資本準備金	売上	仕入割引	社債償還益	仕入
社債償還損	固定資産売却損	固定資産除却損	保証債務費用	

1. 清水商店に対する買掛金¥500,000の支払いにあたり、期日前のため3%の割引を受け、割引額を差し引いた金額は小切手を振り出して支払った。
2. 従業員横浜太郎が退職し、退職一時金¥8,500,000を定期預金から支払った。ただし、退職給付引当金勘定の残高が¥12,000,000ある。
3. 大阪商事株式会社は、次の条件で発行した社債のうち、額面¥10,000,000を発行後6年目の初頭に額面¥100につき¥98.20で買入償還し、小切手を振り出して支払った。ただし、社債の評価は償却原価法（定額法）によっている。

発行条件	額面総額 ¥50,000,000	払込金額	額面¥100につき¥97.50
	償還期限 10年	利率	年 2%

4. 富良野商店と売価¥280,000の商品について予約販売契約を結び、予約金として全額を現金で受け取った。
5. 兵庫商店から商品¥920,000を仕入れ、代金のうち¥600,000は得意先岡山商店振り出し、当店で約束手形を裏書譲渡し、残額は小切手を振り出して支払った。なお、保証債務の時価は手形額面金額の7%とする。
6. 島根鉱業株式会社は、期首にこれまで使用してきた取得原価¥3,600,000の採掘用機械装置を除却し、廃棄処分した。ただし、残存価額は取得原価の10% 予定総利用時間数は27,000時間 前期末までの実際利用時間数は21,000時間であり、生産高比例法によって減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。なお、この機械装置の評価額は零（0）である。

	借	方	貸	方
1				
2				
3				
4				
5				
6				

現 備 前 資 社	受 本 償 還	金 品 金 金 損	当 建 支 売	座 払	預 手	金 物 形 上	定 子 社 社	期 会 債	預 社 債	金 式 債	受 の 長 保 証	取 れ 借 入 費 用	形 人 金 用 上	売 買 保 手	掛 掛 証 形	金 金 務 損
-----------------------	------------------	-----------------------	------------------	--------	--------	------------------	------------------	-------------	-------------	-------------	-----------------------	----------------------------	-----------------------	------------------	------------------	------------------

- | 山口商会 | | 貸借対照表 | | (単位：円) | |
|------|-----------|-------|-----------|--------|--|
| 売掛金 | 3,300,000 | 買掛金 | 3,200,000 | | |
| 建物 | 3,800,000 | 長期借入金 | 1,800,000 | | |
| 備品 | 1,420,000 | 資本金 | 3,520,000 | | |
| | 8,520,000 | | 8,520,000 | | |

- | | | | | |
|------|------|-------------|------|---------------|
| 発行条件 | 額面総額 | ¥80,000,000 | 払込金額 | ¥100につき¥98.20 |
| | 償還期限 | 10年 | 利率 | 年 1.2% |

- | | 借 方 | 貸 方 |
|---|-----|-----|
| 1 | | |
| 2 | | |
| 3 | | |
| 4 | | |
| 5 | | |
| 6 | | |

▶33-8◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	定 期 預 金	受 取 手 形	売 掛 金
売買目的有価証券	買 掛 金	支 払 手 形	前 受 金	未 払 配 当 金
保 証 債 務	社 債	資 本 金	利 益 準 備 金	別 途 積 立 金
繰越利益剰余金	売 上 受 取 利 息	有 価 証 券 利 息	仕 入 割 引	
社 債 償 還 益	仕 入 保 証 債 務 費 用	社 債 償 還 損		

1. 佐賀商店から商品¥770,000を仕入れ、代金のうち¥450,000は得意先熊本商店振り出し、当
あての約束手形¥450,000を裏書譲渡し、残額は小切手を振り出して支払った。なお、保証債務の
時価を¥9,000と評価した。
2. 宮崎商事株式会社は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分すること
を決議した。ただし、繰越利益剰余金勘定の貸方残高は¥8,350,000である。なお、資本金は
¥70,000,000 資本準備金は¥16,000,000 利益準備金は¥890,000である。
利益準備金 会社法に規定する額 配 当 金 ¥7,000,000 別途積立金 ¥390,000
3. 売買目的で額面¥3,000,000の社債を額面¥100につき¥94.80で買い入れ、代金は買入手数料
¥30,000 端数利息¥16,000とともに小切手を振り出して支払った。
4. 鹿児島商事株式会社は、次の条件で発行した社債のうち、額面¥44,000,000を発行後5年目の
初頭に額面¥100につき¥99.80で買入償還し、定期預金から支払った。ただし、社債の評価は償却
原価法（定額法）によっている。
発行条件 額面総額 ¥88,000,000 払込金額 額面¥100につき¥98.50
償還期限 5年 利 率 年 1.8 %
5. 沖縄商店に対する買掛金の支払いにあたり、支払期日前のため、契約によって¥18,000の割引を
受け、割引額を差し引いた金額¥1,782,000は現金で支払った。
6. 顧客に季節ごとの商品（全4回）を発送する契約で予約を受け付けたところ、100件（1件あた
り¥30,000）の申し込みがあり、予約金¥3,000,000が当座預金口座に振り込まれた。

	借	方	貸	方
1				
2				
3				
4				
5				
6				

▶33-9◀ 次の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現 金	当 座 預 金	売 掛 金	売買目的有価証券	不 渡 手 形
備 品	備品減価償却累計額	子 会 社 株 式	支 払 手 形	未 払 金
未 払 配 当 金	保 証 債 務	資 本 準 備 金	利 益 準 備 金	別 途 積 立 金
繰越利益剰余金	売 上	有 価 証 券 利 息	有 価 証 券 売 却 益	保 証 債 務 取 崩 益
固定資産売却益	保 証 債 務 費 用	支 払 利 息	有 価 証 券 売 却 損	固 定 資 産 売 却 損
子会社株式評価損	試 用 販 売 契 約	試 用 仮 売 上		

- かねて、取引銀行で割り引いた東南商店振り出しの約束手形が期日に不渡りとなり、取引銀行から償還請求を受けた。よって、手形金額¥350,000および期日以後の利息¥2,000をともに小切手を振り出して支払い、同時に東南商店に支払請求をおこなった。なお、この手形を割り引いたさいに¥7,000の保証債務を計上している。
- 横浜商店に試用販売のため、A品とB品を送付していたが、本日、同店からA品を買い取るとの通知を受け、B品は返送された。ただし、商品を発送したさい、試用販売契約・試用仮売上の対照勘定を用いて次の金額で備忘記録がしてある。
A品 ¥230,000 (売価) B品 ¥200,000 (売価)
- 弘前商事株式会社は、実質的に支配している西南産業株式会社の財政状態が著しく悪化したので、保有する同社の株式130株（1株の帳簿価額¥93,000）を実質価額によって評価替えした。なお、西南産業株式会社の資産総額は¥27,240,000 負債総額は¥19,640,000で、発行済株式数は200株（時価の把握がきわめて困難な株式）である。
- 盛岡商事株式会社は、株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり配当および処分することを決議した。なお、当社の純資産は、資本金¥60,000,000 資本準備金¥13,740,000 利益準備金¥1,050,000 別途積立金¥480,000 繰越利益剰余金¥2,940,000（貸方）である。
利益準備金 会社法に規定する額 配 当 金 ¥2,400,000 別途積立金 ¥260,000
- 仙台商事株式会社（決算年/回）は、第7期初頭に備品を¥280,000で買い入れ、この代金はこれまで使用してきた備品を¥69,000で引き取らせ、新しい備品の代金との差額は翌月末に支払うことにした。ただし、この古い備品は第4期初頭に¥240,000で買い入れたもので、耐用年数6年、残存価額は零（0）とし、定額法によって毎期の減価償却費を計算し、間接法で記帳してきた。
- 売買目的で保有している甲府工業株式会社の社債 額面¥40,000,000のうち¥20,000,000を¥100につき¥99.20で売却し、代金は端数利息¥83,000とともに小切手で受け取った。ただし、この額面¥40,000,000の社債は当期に¥100につき¥97.50で買い入れたものであり、同時に買入手数料¥80,000および端数利息¥48,000を支払っている。

	借	方	貸	方
1				
2				
3				
4				
5				
6				

▶5-8

	借 方	貸 方
(1)	売 買 目 的 有 価 証 券 7,814,000 有価証券利息 32,000	当 座 預 金 7,846,000
(2)	売 買 目 的 有 価 証 券 5,879,000 有価証券利息 16,000	当 座 預 金 5,895,000
(3)	売 買 目 的 有 価 証 券 5,935,000 有価証券利息 24,000	当 座 預 金 5,959,000
(4)	現 金 14,890,000	売 買 目 的 有 価 証 券 14,670,000 有価証券売却益 120,000 有価証券利息 100,000
(5)	現 金 14,650,000	売 買 目 的 有 価 証 券 14,517,000 有価証券売却益 3,000 有価証券利息 130,000

▶9-7

	借 方	貸 方
(1)	建 物 58,000,000	建設仮勘定 43,000,000 当 座 預 金 15,000,000
(2)	修 繕 費 1,300,000	建 物 1,300,000
(3)	建 物 7,300,000 修 繕 費 1,100,000	未 払 金 8,400,000
(4)	機 械 装 置①80,390,000	建設仮勘定 60,000,000 当 座 預 金 20,300,000 現 金 90,000
(5)	建 物 2,550,000 修 繕 費 4,250,000	未 払 金 6,800,000
(6)	機 械 装 置 75,130,000	建設仮勘定 50,000,000 当 座 預 金 25,000,000 現 金 130,000
(7)	建 物 2,000,000	当 座 預 金 2,000,000

▶10-6

	借 方	貸 方
(1)	備 品 減 価 償 却 累 計 額 1,120,000 備 品① 2,900,000 固定資産売却損 240,000	備 品 2,560,000 未 払 金 1,700,000
(2)	備 品 減 価 償 却 累 計 額② 940,000 固定資産売却損 470,000	備 品 1,410,000
(3)	機 械 装 置 減 価 償 却 累 計 額 7,695,000 機 械 装 置③ 6,732,000 固定資産売却損 315,000	機 械 装 置 8,550,000 未 払 金 6,192,000

▶10-7

	借 方	貸 方
(1)	備 品 減 価 償 却 累 計 額 1,225,000 備 品① 3,200,000 固定資産売却損 275,000	備 品 2,800,000 未 払 金 1,900,000
(2)	備 品 減 価 償 却 累 計 額 320,000 備 品② 540,000 固定資産売却損 123,000	備 品 480,000 当 座 預 金 503,000
(3)	機 械 装 置 減 価 償 却 累 計 額③ 4,940,000 固定資産売却損 260,000	機 械 装 置 5,200,000
(4)	備 品 減 価 償 却 累 計 額④ 488,000 固定資産売却損 512,000	備 品 1,000,000
(5)	備 品 減 価 償 却 累 計 額 480,000 備 品⑤ 1,250,000 固定資産売却損 80,000	備 品 960,000 未 払 金 850,000

▶11-3

借 方	貸 方
売 掛 金 7,000,000	買 掛 金 1,000,000
備 品 3,000,000	借 入 金 3,000,000
建 物 5,000,000	当 座 預 金 13,000,000
の れ ん①2,000,000	

▶11-4

のれんの金額 ¥ 200,000

▶11-5

	借 方	貸 方
(1)	鉱業権償却① 6,000,000	鉱業権 6,000,000
(2)	売掛金 3,200,000 建物 3,900,000 備品 1,400,000 のれん ③ 650,000	買掛金 3,100,000 長期借入金 2,000,000 当座預金② 4,050,000

▶12-4

	借 方	貸 方
(1)	子会社株式 評価損① 2,800,000	子会社株式 2,800,000
(2)	現金 15,000 満期保有 目的債券 ② 2,000	有価証券利息 17,000
(3)	満期保有③ 3,973,000 目的債券 有価証券利息 56,000	当座預金 4,029,000
(4)	前払保険料 132,000 長期前払保険料 165,000	保険料 297,000
(5)	その他有価証 券評価差額金 900,000	その他有価証券 900,000

▶12-6

	借 方	貸 方
(1)	子会社株式 評価損① 6,450,000	子会社株式 6,450,000
(2)	現金 ② 60,000 満期保有 目的債券 18,000	有価証券利息 78,000
(3)	子会社株式 評価損③ 10,800,000	子会社株式 10,800,000
(4)	満期保有 5,712,000 目的債券 有価証券利息 22,000	当座預金 5,734,000

▶14-5

	借 方	貸 方
(1)	仕入 650,000 保証債務費用 4,000	受取手形 200,000 支払手形 450,000 保証債務 4,000
(2)	当座預金 597,000 手形売却損 3,000 保証債務費用 6,000	受取手形 600,000 保証債務 6,000
(3)	保証債務 3,000	保証債務取崩益 3,000
(4)	保証債務 7,000	保証債務取崩益 7,000
(5)	不渡手形 1,256,000 保証債務 ① 25,000	当座預金 1,256,000 保証債務取崩益 25,000

▶15-9

	借 方	貸 方
(1)	社 債① 29,802,000	定期預金 29,580,000 社債償還益 222,000
(2)	社 債② 14,937,000 社債償還損 18,000	当座預金 14,955,000
(3)	社 債 8,000,000	当座預金 8,000,000
(4)	社債利息 ③ 225,000	社 債 225,000
(5)	社債利息 ④ 12,000	社 債 12,000
(6)	未払社債 30,000,000	定期預金 30,000,000
(7)	社 債 14,000,000	当座預金 14,000,000
(8)	社 債⑤ 39,616,000	当座預金 39,480,000 社債償還益 136,000

▶16-3

	借 方	貸 方
(1)	退職給付引当金 4,500,000	定期預金 4,500,000
(2)	退職給付費用 860,000 定期預金 860,000	退職給付引当金 860,000 当座預金 860,000

▶16-4

	借 方	貸 方
(1)	退職給付引当金 400,000	仮払金 400,000
(2)	退職給付引当金 7,000,000	定期預金 7,000,000

▶18-5

	借 方	貸 方
(1)	当座預金 63,000,000 株式交付費 520,000	資本金 31,500,000 資本準備金 31,500,000 当座預金 520,000
(2)	当座預金 32,000,000 創立費① 1,300,000	資本金 16,000,000 資本準備金 16,000,000 当座預金 1,300,000
(3)	当座預金 48,000,000 株式交付費 390,000	資本金 24,000,000 資本準備金 24,000,000 当座預金 390,000
(4)	当座預金 35,000,000	資本金 17,500,000 資本準備金 17,500,000
(5)	当座預金 27,000,000 創立費 1,760,000	資本金 13,500,000 資本準備金 13,500,000 当座預金 1,760,000
(6)	当座預金 19,000,000 株式交付費 880,000	資本金 9,500,000 資本準備金 9,500,000 当座預金 880,000

▶19-3

	借	方	貸	方
(1)	資本準備金	4,000,000	その他資本 剰余金	4,000,000
(2)	資本金	3,000,000	その他資本 剰余金	3,000,000
	その他資本 剰余金	3,000,000	繰越利益剰余金	3,000,000
(3)	資本金	5,500,000	その他資本 剰余金	5,500,000
	その他資本 剰余金	5,500,000	未払配当金	5,000,000
			資本準備金	500,000
(4)	資本金	3,500,000	その他資本 剰余金	3,500,000
	その他資本 剰余金	3,500,000	繰越利益剰余金	3,500,000
(5)	現金預金	1,050,000	買掛金	4,500,000
	売掛金	5,250,000	資本金	9,000,000
	繰越商品	8,400,000	その他資本 剰余金	3,000,000
	備品	1,500,000		
	のれん	① 300,000		

▶19-6

	借	方	貸	方
(1)	その他資本 剰余金	11,700,000	繰越利益剰余金	11,700,000
(2)	売掛金	2,700,000	買掛金	1,300,000
	建物	7,500,000	資本金	10,000,000
	備品	2,680,000	資本準備金	2,000,000
	のれん	420,000		

▶20-3

	借	方	貸	方
(1)	建物	9,700,000	建設仮勘定	5,200,000
			当座預金	4,500,000
	新築積立金	9,500,000	繰越利益剰余金	9,500,000
(2)	繰越利益剰余金	4,200,000	損益	4,200,000
(3)	繰越利益剰余金	4,600,000	利益準備金	① 320,000
			未払配当金	3,200,000
			別途積立金	1,080,000
(4)	未払社債	50,000,000	定期預金	50,000,000
	減債積立金	50,000,000	繰越利益剰余金	50,000,000

▶20-6

	借	方	貸	方
(1)	その他資本 剰余金	1,100,000	未払配当金	4,000,000
	繰越利益剰余金	3,300,000	資本準備金	100,000
			利益準備金	300,000
(2)	繰越利益剰余金	1,760,000	利益準備金	① 130,000
			未払配当金	1,410,000
			別途積立金	220,000
(3)	繰越利益剰余金	2,630,000	利益準備金	② 210,000
			未払配当金	2,100,000
			別途積立金	320,000
(4)	社債	8,000,000	当座預金	8,000,000
	減債積立金	8,000,000	繰越利益剰余金	8,000,000
(5)	その他資本 剰余金	4,400,000	未払配当金	7,000,000
	繰越利益剰余金	3,300,000	資本準備金	400,000
			利益準備金	300,000

▶21-2

	借	方	貸	方
(1)	自己株式	12,000,000	当座預金	12,000,000
(2)	当座預金	4,200,000	自己株式	3,600,000
			その他資本 剰余金	① 600,000
(3)	当座預金	6,000,000	自己株式	7,200,000
	その他資本 剰余金	1,200,000		
(4)	その他資本 剰余金	② 1,200,000	自己株式	1,200,000
(5)	当座預金	600,000	新株予約権	600,000
(6)	当座預金	2,000,000	資本金	2,300,000
	新株予約権	③ 300,000		

▶21-3

	借	方	貸	方
(1)	自己株式	2,500,000	当座預金	2,500,000
(2)	当座預金	2,100,000	自己株式	1,500,000
			その他資本 剰余金	600,000
(3)	当座預金	1,500,000	自己株式	2,000,000
	その他資本 剰余金	500,000		
(4)	その他資本 剰余金	800,000	自己株式	800,000

▶23-6

	借	方	貸	方
(1)	売掛金	250,000	(試用)売上	250,000
	試用仮売上 ①	500,000	試用販売契約	500,000
(2)	現金	30,000	(割賦)売上	30,000
	割賦仮売上	30,000	割賦販売契約	30,000

▶23-11

	借	方	貸	方
(1)	試用仮売上	360,000	試用販売契約	360,000
(2)	現金	97,000	(割賦)売上	97,000
	割賦仮売上	97,000	割賦販売契約	97,000
(3)	割賦販売契約	4,680,000	割賦仮売上	4,680,000
	現金	195,000	(割賦)売上	195,000
	割賦仮売上	195,000	割賦販売契約	195,000
(4)	売掛金	200,000	(試用)売上	200,000
	試用仮売上	380,000	試用販売契約	380,000

▶33-1

	借	方	貸	方
1	建物	4,800,000	当座預金	8,700,000
	修繕費 ①	3,900,000		
2	機械装置	7,200,000	機械装置	8,500,000
	機械装置減価償却累計額 ②	6,800,000	未払金	6,250,000
	固定資産売却損	750,000		
3	当座預金	40,000,000	資本金	20,000,000
	株式交付費	280,000	資本準備金 ③	20,000,000
			当座預金	280,000
4	自己株式	5,600,000	当座預金	5,600,000
5	社債 ④	59,550,000	定期預金	58,920,000
			社債償還益	630,000

▶33-2

	借	方	貸	方
1	当座預金	822,000	受取手形	830,000
	手形売却損	8,000		
	保証債務費用	17,000	保証債務	17,000
2	社債	80,000,000	当座預金	80,000,000
	減債積立金	80,000,000	繰越利益剰余金	80,000,000
3	備品減価償却累計額 ①	3,630,000	備品	4,840,000
	固定資産売却損	1,210,000		
4	満期保有目的債券 ②	6,483,000	当座預金	6,507,000
	有価証券利息	24,000		
5	鉱業権償却 ③	3,550,000	鉱業権	3,550,000
6	割賦販売契約 (割賦売掛金) ④	1,800,000	割賦仮売上	1,800,000
	現金	75,000	売上	75,000
	割賦仮売上	75,000	割賦販売契約 (割賦売掛金)	75,000

▶33-3

	借	方	貸	方
1	機械装置	90,070,000	建設仮勘定	65,000,000
			当座預金	25,000,000
			現金	70,000
2	試用仮売上 ①	850,000	試用販売契約	850,000
3	現金	4,925,000	売買目的有価証券	4,600,000
			有価証券売却益	275,000
			有価証券利息	50,000
4	保証債務 ②	8,000	保証債務取崩益	8,000
5	売上割引	17,000	売掛金	850,000
	現金	833,000		
6	その他の資本剰余金	1,650,000	未払配当金	5,000,000
	繰越利益剰余金	3,850,000	資本準備金	150,000
			利益準備金	350,000
7	備品減価償却累計額	976,000	備品	2,000,000
	固定資産売却損	1,024,000		

▶33-4

	借 方	貸 方
1	買 掛 金 450,000	仕入割引 9,000 当座預金 441,000
2	鉱業権償却① 12,800,000	鉱 業 権 12,800,000
3	当座預金 2,750,000 その他資本剰余金 550,000	自己株式 3,300,000
4	仕 入 18,000	仕入割引 18,000
5	現 金 140,000 割賦販売上 140,000	売 上 140,000 割賦販売契約 (割賦売掛金) 140,000
6	修 繕 費② 2,100,000	建 物 2,100,000
7	社 債 利 息③ 75,000	社 債 75,000
8	当座預金 32,800,000 創 立 費 1,460,000	資 本 金 16,400,000 資本準備金④ 16,400,000 当座預金 1,460,000

▶33-5

	借 方	貸 方
1	割賦販売契約 (割賦売掛金) 7,560,000	割賦販売上① 7,560,000
2	不渡手形 502,000 保証債務② 5,000	当座預金 502,000 保証債務取崩益 5,000
3	当座預金 57,000,000 株式交付費③ 360,000	資 本 金 28,500,000 資本準備金 28,500,000 当座預金 360,000
4	売上割引 17,000	売 掛 金 17,000
5	建 物 7,200,000 新築積立金 7,000,000	建設仮勘定 4,200,000 当座預金 3,000,000 繰越利益剰余金 7,000,000
6	備品減価 償却累計額 1,085,000 備 品④ 3,000,000 固定資産売却損 395,000	備 品 2,480,000 未 払 金 2,000,000

▶33-6

	借 方	貸 方
1	買 掛 金 500,000	仕入割引 15,000 当座預金 485,000
2	退職給付引当金 8,500,000	定期預金 8,500,000
3	社 債① 9,875,000	当座預金 9,820,000 社債償還益 55,000
4	現 金 280,000	前 受 金 280,000
5	仕 入 920,000 保証債務費用② 6,000	受取手形 600,000 当座預金 320,000 保証債務 6,000
6	機械装置減価 償却累計額③ 2,520,000 固定資産除却損 1,080,000	機 械 装 置 3,600,000

▶33-7

	借 方	貸 方
1	売 掛 金 3,300,000 建 物 3,800,000 備 品 1,420,000 の れ ん 680,000	買 掛 金 3,200,000 長期借入金 1,800,000 当座預金① 4,200,000
2	前 受 金 300,000 売 掛 金 300,000	売 上 600,000
3	当座預金 696,000 手形売却損 4,000 保証債務費用 7,000	受取手形 700,000 保 証 債 務② 7,000
4	社 債 59,784,000	定期預金 59,700,000 社債償還益 84,000
5	子会社株式 評価損③ 8,800,000	子会社株式 8,800,000
6	売 掛 金 680,000 試用販売上 680,000	売 上 680,000 試用販売契約 680,000

▶33-8

	借 方	貸 方
1	仕 入 770,000 保証債務費用 9,000	受取手形 450,000 当座預金 320,000 保 証 債 務① 9,000
2	繰越利益剰余金 8,000,000	利益準備金 610,000 未払配当金 7,000,000 別途積立金 390,000
3	売 買 目 的 有 価 証 券② 2,874,000 有価証券利息 16,000	当座預金 2,890,000
4	社 債③ 43,868,000 社債償還損 44,000	定期預金 43,912,000
5	買 掛 金 1,800,000	仕入割引 18,000 現 金 1,782,000
6	当座預金 3,000,000	前 受 金 3,000,000

▶33-9

	借 方	貸 方
1	不渡手形 352,000 保証債務 7,000	当座預金 352,000 保証債務取崩益 7,000
2	売 掛 金 230,000 試用販売上 430,000	売 上 230,000 試用販売契約① 430,000
3	子会社株式 評価損② 7,150,000	子会社株式 7,150,000
4	繰越利益剰余金 2,870,000	利益準備金 210,000 未払配当金 2,400,000 別途積立金 260,000
5	備品減価 償却累計額 120,000 備 品③ 280,000 固定資産売却損 51,000	備 品 240,000 未 払 金 211,000
6	現 金 19,923,000	売 買 目 的 有 価 証 券 19,540,000 有価証券売却益④ 300,000 有価証券利息 83,000